

本日の研修コース概略

9時00分	後楽園駐車場（集合）		
9時10分	正門		
	津田永忠記念碑	（解説）	明治19年建立（篆額=池田茂政、撰文=池田章政）
	後楽園用水取水口	（解説）	後楽園用水の開鑿と底樋（逆サイホン、延長48間）
	水路（曲水）		当時開鑿され、備前平野を四通八達していた農業用水の貴重な遺構そのもの
	水車の謎		なぜ、ここに水車が設置されているのか
	花葉の池		初期は、曲水から滝まで開渠で直接滝まで導水
	大立石	（解説）	犬島産（高さ7.5メートル、推定重量400トン）、九十九（つくも）石と言われていた
	ひょうたん池		曲水とひょうたん池との水位差、巧みな通水利水システムに注目（1740年頃に整備）
	土橋		当時の農村の原風景、100年200年の星霜に耐えられる盤石の基礎構造
	流店		継政の時代の作事か
	花交の池（木製底樋）	（解説）	
	井田		模型とはいえ、周代の租税法を完全な形で現代に伝える世界唯一無二の遺構？ 備前穂浪には津田永忠が地割りした井田が現存。
	慈眼堂（烏帽子岩）		岩の割り方、楔の跡に注目
	正門		
10時00分	後楽園駐車場（出発）		
	弓之町（津田永忠生誕地）		永忠は生涯に7度転居。寛永17年（1640）、弓之町（現県民局南東の駐車場辺り）で生まれている。
10時05分	岡山藩校（畔池）		寛文9年（1669）落成。蕃山、開校式で講義。
	郡代居宅跡		元禄4年（1691）52歳のとき、水野助三郎の跡屋敷を下賜される。
10時20分	京橋橋脚	（解説）	元禄六年、修造されている。洪水時の水流水圧を考慮したと思われる構造に注目。
	江並		明治18年（1885）明治天皇の巡察路（江並→沖新田→一日市）か
	六番川河口樋門		明治期に築造されたアーチ式の河口水門
10時50分	大水尾（解説・ゴミ拾い）		岡山城下町の防災と、大規模干拓新田の利水排水路として実現した百間川。当時としては類を見ない大規模干拓を成就させた永忠の革新的技術とは？
11時30分	倉安川吉井水門	（解説）	現存する国内最古の運河式水門。二つの水門とその間の円形の船廻しに注目。倉安川は吉井川と旭川を結ぶ全長20kmにも及ぶ運河を兼ねた農業用水
	百間の石樋		保木山から張り出した岩盤を幅3.6メートル、長さ150メートルにわたり切削、開鑿した田原用水最大の難工事であった。
12時15分	小野田川掛樋	（解説）	国内最大の石造水路橋、元禄5年（1692、元禄10年とも）頃完成か。長さ13メートル、幅3.2メートル、深さ1.1メートル。水漏れ防止の特殊（油）漆喰が使用されていた。
13時00分	田原井堰資料館	（見学と座談会）	長さ490（550）メートル、幅約20～30メートルの大規模堰堤。池田忠雄の時代（1625年頃）に既に築かれていたものを寛文9年頃から元禄初期（1690年頃）にかけて大幅に改造・補修したものと思われる。田原用水、益原用水はここから取水され和気、熊山、瀬戸の水田800町歩を灌漑。かつ砂川に注ぐ余水は沖新田の灌漑にも活用された。井堰上部の切石による巻石と、それを支える膨大な捨石群（最大のもので重さ2トン、平均1トン程度ものが6万3000個使用されていた。石は直近の天瀬や天神山から採石）に、工事の規模が偲ばれる。左岸側上部に幅11メートルの高瀬通しが設けられていた。
14時00分	田原井堰資料館発		
15時00分	後楽園着		